

# 第28回（2025年）まちづくり・都市デザイン競技 結果概要

主催：公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター  
後援：国土交通省、柏市  
事務局：公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

## 趣旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。

現在の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されています。

こうしたまちづくりの課題を踏まえ、本「まちづくり・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成10年度より毎年実施しており、今年度で第28回目を数えます。

## 対象地区

今回の対象地区は、まちの更なる発展を目指すべく、その転換期を迎えている「柏駅周辺地区」（約42.8ha）といたしました。

本地区は、昭和48年（1973年）に全国に先駆けて実施された柏駅東口市街地再開発事業の竣工を契機に、駅東口・駅西口に各々大規模百貨店が立地しました。加えて、駅前交通広場として整備された全国初のペDESTリアンデッキは、「ダブルデッキ」という愛称で呼ばれ、整備から半世紀が経過した現在もなお、憩い・交流の場として、市民に親しまれています。

平成時代に入ると上記商業機能（一部）のリニューアルや新館が開業されました。しかしながら、近年では、商業施設の閉店が相次ぎ、商業機能の更新の時期を迎えている状況となっています。



## 募集内容

(※) 募集要領（令和7年11月公開）からの抜粋  
柏駅周辺地区では、これまでの拠点性を維持しつつも、未来に向けた転換期として駅東口、西口の新たなまちづくりが求められています。

本競技においては、これまで述べた柏駅周辺地区の現況に鑑み、以下の2点の提案を求めます。

(1) 柏駅周辺地区における個性の開拓および県の中核となるまちとしての役割、これらを踏まえたコンセプト・テーマの設定

市では、令和7年4月に市政を総合的・計画的に進めるための指針とする「柏市第六次総合計画」を策定しています。その中で、「東葛圏域の中核となるだけでなく、新しく集った人々と共創し、圏域や社会を先導するまちとして、未来を見据えたまちづくり政策」、「皆があこがれ、住みたい・住み続けたい、訪れたいと思うまち」を“リーディングコアシティ”と表現し、地域を牽引する魅力あふれるまちを目指しています。

商業拠点都市として栄えてきた柏駅周辺地区における「個性」を伸ばすだけでなく、賑わい創出に寄与する公共公益施設の拡充も視野に入れ、県北西部における中核となるまちとして、柏駅周辺地区は今後どのような役割を担うべきか、これらの観点を踏まえたまちづくりにおける具体的なコンセプト・テーマを提案してください。

(2) 10年後（近未来）・20年後（目指すべき都市像）の段階的なまちづくりのビジョン・イメージおよび整備手法

(1)において設定したコンセプト・テーマを実現するために、10年後（近未来）・20年後（目指すべき都市像）の段階的なまちのビジョン・イメージといった空間デザインと、その整備手法の提案を求めます。その際には市有地（旧そごう跡地等）を積極的に活用し、民間との協働による整備とする提案としてください。

なお、提案に当たっては以下の点に留意してください。

- ① 旧そごう跡地の土地利用（地下部の活用も可）やJR柏駅北口改札予定位置を中心としたまちづくりを展開すること。また、対象地区内における商店会とのつながりも意識し、まちの活力が対象地区全体へ波及することをイメージし、地区内の高い回遊性を生み出すこと。
- ② 柏駅西口北地区市街地再開発事業については、「柏駅西口北地区 地区再生計画書・街区整備計画書」に記載の

基本方針に基づいた、当該地区の課題解決に向けた提案とすること。

- ③ 柏駅周辺地区に人が集うような「居心地の良い場所」とするために備える機能・施設について、明確な利用者・対象者を設定し具体的に提案すること。
- ④ ハウディモールにおいては残存されている防火建築帯の建て替えを考慮した提案とすること。

### 応募図書

上記の募集内容に即して、対象地区の整備構想、主要な提案空間のデザインイメージ、実現化方策等を表現した A2 サイズのパネル 2 枚の提出を求めました。

### スケジュール

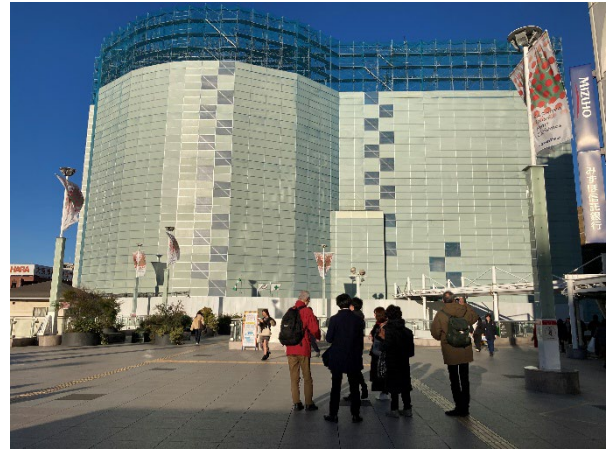
- 応募登録期間  
令和 7 年 11 月 13 日（木）～令和 8 年 2 月 9 日（月）
- 現地説明会  
令和 7 年 11 月 13 日（木） 13：30～15：30
- 質疑受付期間  
令和 7 年 11 月 13 日（木）～11 月 20 日（木）
- 応募図書提出締切  
令和 8 年 2 月 16 日（月） 17 時必着
- 審査委員会  
令和 8 年 2 月 25 日（水）
- 表彰  
令和 8 年 6 月（まちづくり月間期間内）

### 現地説明会の様子

令和 7 年 12 月、審査委員に向けて現地説明会が行われました。



▲ハウディモール



▲東口側 旧そごう跡地

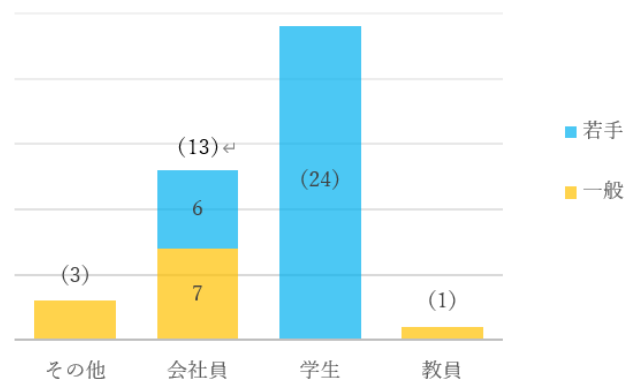


▲西口側デッキ

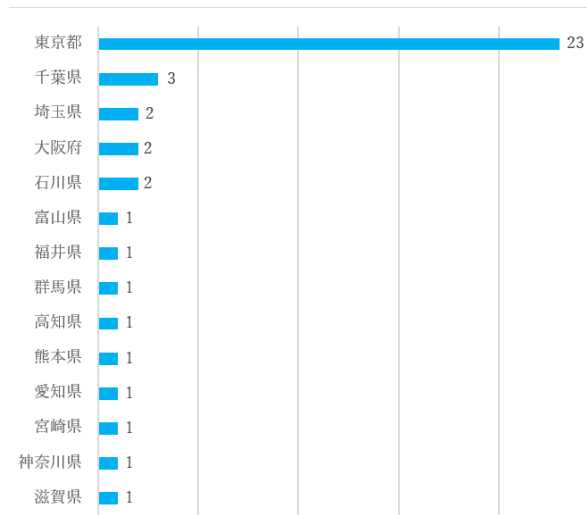
### 応募件数・応募者の属性

応募登録が 53 グループあり、最終的に 41 作品が提出されました（作品提出代表者の属性はグラフを参照）。

#### ▼所属（職業）別作品件数



▼住所又は勤務先別作品件数



**審査委員会及び結果**

1. 審査委員会

[委員長]

西村幸夫 國學院大學教授、東京大学名誉教授

[委員]

石川幹子 中央大学研究開発機構 機構教授、  
東京大学名誉教授

伊藤香織 東京理科大学教授

岸井隆幸 (公財)都市づくりパブリックデザインセンター  
理事長、(一財)計量計画研究所代表理事

高見公雄 法政大学名誉教授

小川 博之 国土交通省都市局市街地整備課長

太田 和美 柏市長

(代理出席：篠田 健太郎 柏市都市部技監)

(順不同、敬称略、令和8年5月時点)



▲審査委員会 (令和8年2月25日開催)

2. 審査結果

審査委員会での審査の結果、下記の方々作品が選定されました。※柏市長特別賞は柏市により選定

**国土交通大臣賞**

…賞状及び賞金 50 万円

「むすんで ひらいて... かしわで ~変化を繰り返しながら  
多世代が響き合うまちに~」

石田 武/半澤 武夫/杉本 士美/野島 僚子/平賀 順也  
/西山 有希/アニサ ラマティア ワルドヨ/白鳥 翔大  
/村上 菜登/倉品 凜一/石井 元啓/小林 芽依/比果  
未穂子/北脇 優子/大井 涼太郎 [大成建設株式会社]

**まちづくり・都市デザイン競技審査委員会賞**

…賞状及び賞金 12 万円

「連鎖するまち かしわっか」

服部 優亜/天野 篤 [早稲田大学創造理工学部建築学科]

**(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞**

…賞状及び賞金 5 万円

「KASHIWA Try-Angle ~まちの角を起点に絶えず挑戦が  
生まれるまち柏~」

関 華子/野上 昌孝/佐藤 良介/大山 優/梅澤 達紀

[株式会社 日本設計]

**奨励賞 (2 点)**

…賞状及び賞金 3 万円

「カシワ×バ -人・文化が交わり、多様な活動が生まれる土  
壤-」

尾美 樹生/石本 莉菜/清水 杏/高橋 昌幹/田村 悠  
真/齋島 幹汰/安野 壮哉 [戸田建設株式会社]

「カシワ・シャベリバ -都市を更新する“会話のインフラ”開  
発計画-」

吉永 悠真/饗庭 優樹/池成 貴大/川崎 太一/本郷 みず  
ほ [株式会社 竹中工務店]

**柏市長特別賞 (2 点)**

…賞状及び記念品

「かしづく、かしわ。 Seed × Link = SEEd LINK」

鷹野 まい/久保 貴生/和田 倫典/長井 香南/池澤 匠  
[株式会社オオバ]

「KASHIWA HUMAN NEXUS ~分断された街を「人の成  
長」で縫い合わせるコモンズ~」

金城正紀 [東京家政大学]

## 総評

柏駅周辺の課題は、昭和30年以降の急速な都市化によって発展してきたまちに対し、抜本的な構造転換が求められる節目に位置づけられる競技設計であった。対象地区には、駅東西で高まりつつあるまちづくりの機運や、異なる課題を抱える複数のエリアが含まれており、それらに対して一つの方向性を示す必要があるなど、「解く」こと自体が難しいテーマであったと考えられる。その中で受賞作品は、中核都市としての将来ビジョンという重要な課題に正面から挑んだ力作が揃っていた。全体として提案の密度・精度は高く、現状認識や課題整理も的確で、柏市の未来像を丁寧に描いた作品が多かった。

受賞・落選に関わらず、都市構造の分析からまちづくりのプロセスデザインに至るまで、多様な視点を網羅した提案が多かった点も印象的である。いずれの作品も、柏の成り立ちや地域特性、課題を十分に分析したうえで、明確なコンセプトを打ち出し、ハード・ソフトの両面から多様な手法を組み合わせていた。これらの提案は、今後の柏市のまちづくりを考えるうえで有益な示唆を与えるものである。また、ビジュアル表現も、市民が将来のまちの姿を具体的にイメージし、まちづくりへの関心を高める契機となる点で意義深い。さらに、柏の大火からの復興の象徴である防火建築帯（ハウディ

モール）の記憶を次世代に継承しようとする提案が多く見られたことも、特に興味深かった。

一方で、全体として説明的な傾向が強く、提案・表現の両面において振り切った案がやや少なかった点は惜まれる。また、駅前デッキの広場化を図る提案が多く見られたものの、交通処理の検討が十分とは言えないものもあり、都市的スケールでの成立性への配慮が求められる。審査においては網羅性が評価されやすい側面があるが、実際のまちづくりにおいては「明確で分かりやすいコンセプトの打ち出し」がより重要である。受賞に至らなかった作品も含め、今後さらなる深化と挑戦が期待される。

## 入賞作品の概要

入賞作品の概要・講評は次頁の通りです。

（公財）都市づくりパブリックデザインセンターHPでも詳細をご覧ください。

(<https://www.udc.or.jp>)